

語りと音楽特集 その四

日本音楽集団 1981年度 前期コンサート・シリーズ №. 66

● 1981年7月6日(月) 午後7時開演 ● 青山タワーホール

構成 長沢勝俊

主催 現代邦楽協議会・日本音楽集団

—— プ ロ グ ラ ム ——

一、八郎物語——ダンス・コンセルタントⅢ（東京初演）

若林一郎詞・三木稔作曲

序曲——八郎と子どもたち——冬の訪れ——イワナとり——イワナ喰って竜になる——竜になった八郎——ひとりぼっちの八郎——たつこ姫の笛——南宗坊の出現——竜と竜との闘い——八郎敗る——さすらい——津波と闘う——終曲

語り（客演）＝稲垣隆史（劇団民芸）

笛＝藤崎重康　尺八＝坂田誠山　三味線＝加藤洋　琵琶＝半田淳子
二十絃箏＝吉村七重　十七絃＝内藤洋子　打楽器＝尾崎太一

合唱＝内田とも子・熊沢栄利子・松本和美・佐藤里美・小林恵美子・大島菜穂子
指揮＝田村拓男

二、冬の日・パート2（東京初演）／長沢勝俊作曲

序曲——氷すべり——雪の夜——風と凧——終曲

笛＝藤崎重康　尺八＝三橋貴風　三味線＝太田幸子　琵琶＝田原順子
箏Ⅰ＝白根きぬ子・Ⅱ＝滝田美智子　十七絃＝宮本幸子　打楽器＝堅田啓輝
指揮＝田村拓男

—— 休 憩 ——

三、竜女の玉「竹取物語」より／海津勝一郎作・長沢勝俊作曲

五人の貴族——帝の求婚——竜の玉——昇天

語り（客演）＝稲垣隆史（劇団民芸）

笛＝望月太八　尺八Ⅰ＝宮田耕八朗・Ⅱ＝福田輝久・Ⅲ＝田嶋直士
三味線（細棹）＝太田幸子・（太棹）＝坂井敏子　琵琶＝半田淳子
二十絃箏＝野坂恵子　箏＝花房はるえ　十七絃＝木村玲子
打楽器＝尾崎太一・高橋明邦・黒坂昇　指揮＝田村拓男
合唱＝「八郎物語」と同じメンバー

「語りと音楽」の特集も今回で四回目をむかえることになりました。民謡と古典から各一曲を取上げ、語りと音楽の新しい接点を追求するとともに、子供の世界を画いた合奏曲を加えた楽しいコンサートにしたいと考えております。

〈八郎物語〉は秋田地方に伝わる八郎瀉にまつわる民謡で、雄々しくも心やさしい八郎の雄大な物語です。南の血が流れていると自認し、ふるさと徳島を素材とした数々の名曲を書いてきた三木稔が、ここでは北の世界に素材を求め、その気候風土から生れたこの民謡の世界を鮮烈に画ききっています。

〈冬の日・パート2〉は昨年秋、私が書いた作品で、冬空に舞う童心を描いた作品です。手づくりの味がどんどん失われていく現在、私たちにとって失ってはならないものが沢山あるはずです。これらのいくつかに焦点をあてて、日本の伝統楽器の味を生かしながら子供も大人も楽しめる作品にしたいと思いました。

〈竜女の玉「竹取物語」より〉は、わが国最古の古典といわれている物語を、国文学に造詣の深い海津勝一郎さんが大胆に脚色した、かなしくも美しい物語です。今回は再々演になりますが、各楽器にそれぞれの人物をあてはめ（かぐや姫は二十絃箏、少将の君は篠笛、竜女は琵琶等）楽器と語りの掛け合いの中で両者の有機的なむすびつきを目指したものです。

語りの稲垣さんとは今回が3回目のおつき合いです。劇団民芸の舞台上で数多くの役をこなしてこられ、また音楽にも大変強い稲垣さんが、民謡と古典の世界をどのように語りわけて下さるか大いに期待を持っています。音楽が決して語りの伴奏でなく十分に自己を主張しつつ語りと手を取りあって立体的な舞台をつくること、また日本の楽器になじみのうすい方々にも楽しく聴いて頂きたいというのが今回の大きなねらいです。

あ ら す じ

一、八 郎 物 語

昔、八郎という大男がいた。気はやさしくて力もち、子どもたちのいい遊び相手だった。

ある年の秋、大水が村を襲った。八郎は飢えた子どもたちのために、イワナをとり山奥へいった。そこで山の神のおきてを破った八郎は、竜になってしまう。

人里に住めなくなった八郎は、いまの十和田湖の主となる。そして、笛の音にひかれて田沢湖の主のたつこ姫とめぐりあう。

そこへ現われたのが、南宗坊という山伏。たつこ姫をわがものにするために、南宗坊は八郎に戦いをいどむ、敗れた八郎は、湖を追われ、さすらいの旅を続ける。

八郎が海辺の村についたのを知った南宗坊は、呪文で津波をおこす。八郎は村を守ろうと、山をねこそぎにして海に投げこむ。津波がそれをのりこえて押しよせる。八郎は体ごと、その波をうけとめる。——こうしてできたのが、いまの八郎瀉だ。

(若林一郎)

二、冬の日・パート2

この曲は、昨年秋私が書いた作品で、冬空に舞う童心を画いた作品です。その鈴音に胸をふくらませて大自然の中に向う子供たちの心をうたった「序曲」。ピッカピカのスケートではない「氷すべり」。「雪の夜」の家族団欒の中で語られるおじいさんやおばあさんとの語らい。ビニール凧ではない竹と紙でできた手づくりの凧による「風と凧」。そして「終曲」の五つの章よりできています。

(長沢勝俊)

三、竜女の玉「竹取物語」より

竹取の翁が竹の節の中に座っていた小さな女の子を見つけて育て上げたところ、世にも美しい姫に成長し、人呼んでなよ竹のかぐや姫。姫の魅力にとりつかれた貴族達が求婚しますが、姫の出した難題をやり遂げられず次々と失敗します。ここまでは竹取物語そのままに、これからがこの作品の新しい展開です。さて残る一人の若い貴族の少将は姫の希む竜の玉を求めて長旅の途中、頻死の竜女を助けたお礼に竜の玉を手に入れ、都に駈戻ります。折から八月十五夜の夜半、天女の身分を明かしたかぐや姫が月の宮へ帰ろうとするその時に、少将が飛込んで来ます……玉をかざして。玉を目の前にして暗く悲しい姫の表情から、身体は求められても天女の心は意のままにならぬ事を悟った少将は玉を地に投げます。竜女の玉は雪のように砕けて散りました。なよ竹のかぐや姫は少将に限りない感謝を捧げて月の世界へ戻って行きます。

(海津勝一郎)

稲垣隆史氏紹介

語りで客演をお願いした稲垣さんは、昭和12年群馬県渋川市生れ。子供のころから音楽家を志望し、ピアノを豊増昇氏に師事。俳優座養成所を経て、現在劇団民芸に所属。代表的な舞台は“セールスマンの死”のハッピー・ローマン、“炎の人ゴッホ”のロートレック等。

目下今秋9月上演予定の“夜明け前第二部”の伊之助の役に精進中です。

日本音楽集団推薦

琴・三絃・十七絃・二十絃

琴光堂和楽器店

〒152 東京都目黒区碑文谷2-19-15

TEL 東京 03-792-8481 横浜 045-363-5448

中島 隆